

第1回 三大学学生交流課題研究会議

国内の地方大都市に所在する大学との学生同士による交流や連携によって、地域的並びに社会的に多様な課題に対し、学生の立場で討議し、将来に向けて効果的かつ実践的な方策等を研究を行う。

日時：令和4年9月9日（金）～11日（日）
場所：松本大学（長野県松本市）
参加大学：松本大学、鹿児島国際大学、札幌大学
参加者数：学生18名、教職員16名

【スケジュール】

- 9月9日（金）
- ・三大学包括連携協定調印式
 - ・開催校紹介
 - ・課外研究テーマ設定 テーマ「地域防災」について
- 10日（土）
- ・地元の地域防災プレゼン
 - ・ディスカッション、グループワーク
 - ・地域再生活動、市内散策及び街頭インタビュー
 - ・学生交流会
- 11日（日）
- ・グループ発表、講評（3大学副学長）、挨拶（3大学学長）

【初日】

- 9月9日（金）
- ・三大学包括連携協定調印式
 - ・開催校紹介

〈学生代表 小宮山 慶さん（松本大学）挨拶〉
全国的にも珍しい取組み。この3日間において「地域防災」についての学びを深めるとともに、学生間交流が良い思い出になってほしいと願う。また、この三大学学生交流課題研究会議が、今後も継続・発展することを祈っている。

- ・課外研究テーマ設定 テーマ「地域防災」について

松本大学学生による実践的取組みの紹介（4グループ）

- ・「情報提供（コミュニティFM）有効性」×「防災」
- ・「保育園」×「防災教育」×「地域」
- ・「中学校」×「避難所運営」×「HUG」
- ・「地域防災」×「防災士」×「学びの有効性」



「松本大学・鹿児島国際大学との包括的連携に関する協定書」
調印後の記念撮影



札幌大学 大森学長
鹿児島国際大学 大久保学長
松本大学 菅谷学長

〈大森学長挨拶〉

日本の北と南、そして中央に位置する三大学で地方創生に係る日本縦断モデルをつくりたいという菅谷学長の熱い想いに賛同。昨年12月に準備会を立ち上げ、本日調印式を迎えることができたことを大変嬉しく思う。

南に位置する鹿児島国際大学、日本の中央に位置する松本大学、そして北の札幌大学では、それぞれの特徴をいかした教育が行われている。異なる歴史や文化、地域特有の環境など学びに関する様々なテーマが散在しており、それらを一同に介し学ぶ機会を設けることができたこと、異なる地域の学生と交流できる機会を整えることができたことを大変嬉しく思う。

札幌大学の教育理念である「地域に貢献する人材を育てる」の実現にむけてこの協定は大きな力になると確信している。

学生交流課題研究会議終了後、松本大学構内エントランスにて記念撮影



【2日目】 9月10日（土）

◎地元の地域防災プレゼン

【札幌大学】

☆雪害について

- 札幌市の新しい除雪方法のメリット、デメリット
- ガンプ不足・運転手の減少、過酷な労働環境
- 行政の対応遅れ

☆胆振東部地震について

【鹿児島国際大学】

☆防災

- 桜島について、大規模噴火に備える必要有
- 犠牲者ゼロを目指す防災対策

◎ディスカッション（3大学混合グループを編成し翌日の発表テーマを設定）、グループワーク

☆地域再生活動、市内散策及び街頭インタビュー

☆学生交流会



三大学の学生全員で松本城をバックに記念撮影

【3日目】 9月11日（日）

・グループ発表 〈各グループの設定テーマ〉

- A 「避難情報の周知」
- B 「子どもの防災×防災教育」
- C 「意識啓発について」
- D 「これまでの地域防災とこれからの地域防災」

・講評（副学長） ・挨拶（学長）

〈小山副学長のコメント〉

三日間の取組みを通し、4つのグループごとに課題を取り上げるとともに、今後の方向性の発表が行われた。内容は、①SNSやドローンを活用した新しい地域防災の情報提供の方向性、②子ども（幼児・小児・児童）の段階、特に幼児の防災教育の重要性、③地域防災に関する学生意識調査と予知情報の効果、④これまでとこれからの地域防災、特に自助・共助・公助の中で、最も重要となる自助の防災意識の向上と自主防災組織の必要性などが発表され、また、参加学生と教員が質疑やアドバイスが行われ、とても有意義な発表会であった。参加学生の皆様お疲れさまでした。

今回の「地域防災」に関する3大学連携による取組について、札幌大学でも防災士の資格に関する取組を進めていく方向で検討を行うこととなった。次年度は札幌大学で開催する予定であり、松本大学で行われた「第1回三大学学生交流課題研究会議」と同等あるいはそれ以上の取組が実現できるよう次年度に向け学生・教職員一同で受入態勢を整え、松本大学の学生・教職員の皆様、鹿児島国際大学の学生・教職員の皆様と、第2回開催地である札幌大学でお会いできることを願います。

最後に、松本大学の学生の皆様、菅谷学長・尻無浜学部長をはじめ教職員の皆様、本当にありがとうございました。

〈武蔵 奏多さん〉

この課題研究会議に参加する前は防災について断片的な知識しかなく、本当に防災について学習したことがない私なんかに参加してよいものなのかと感じていました。しかし、地域防災というテーマについて調べたり他大学の学生と交流を深めたり松本市で防災に取り組んでいる町会の方々の話を聞いたりしたことによって、知見を深めることができ、自身の防災に対する意識が向上したので意義のある会議となり参加して良かったと思いました。

〈堀内 健汰さん〉

将来消防士を目指しており「防災について今から学んでおきたい」と思い、今回の三大学学生交流課題研究会議に参加させていただきました。今回の取組を通して、防災の「現状」と「課題」、「理想」の三つに関する事項、鹿児島市や松本市について、より深くまた楽しみながら学ぶことが出来ました。地域柄、起こる災害が全く異なる三大学がディスカッションするからこそ見えてくるものがあり、防災についての視野が広がったことも実感できました。防災に関してのことはもちろん、自分達のプレゼン能力とコミュニケーション能力の向上にも繋がっており、「参加して良かった、また参加したい！」そして、「今回の出会った仲間たちにまた会いたい！」と思える最高の交流会でした。

〈高橋 海渚さん〉

私は東日本大震災を東北地方で経験した事や、現在防災で関わっているプロジェクトがあり、「地域防災」について関心があった為、今回の三大学学生交流課題研究会議に参加させていただきました。今回の会議を通じて「死に直結する災害」と「死を感じにくい災害」があると感じました。

また、「まずは自身の身を守る、次に地域ぐるみで助け合う」という言葉が印象に残りました。札幌では身近に災害を感じにくいですが、実際に災害が起きた時に地域でどう協力するかを考える良いきっかけになりました。

個人的に松本は思い入れのある街であったり、鹿児島はいつか行ってみたい街であった為、学生間の交流を通じて会いたい人が出来た事がとても嬉しかったことでした。